

白山遺跡

長野県飯田市立山本小学校建設用地内

埋蔵文化財発掘調査報告書

1981.3

長野県飯田市教育委員会

白山遺跡

長野県飯田市立山本小学校建設用地内

埋蔵文化財発掘調査報告書

1981.3

長野県飯田市教育委員会

序

山本小学校の移転改築される場所が、竹佐伊那神社東側に決り実施されることになった。

事前に現地を佐藤甦信先生と調査したところ一部古い径と考えられるものは確認されたが、住居址等の所在ははっきり確認出来なかつたので敷地造成工事の際立合調査をすることで進めた。

敷地造成工事が開始され一部表土を押したところで段丘上部北側の斜面より縄文中期の土器片等が発見されたので急遽工事を中止し、土地開発公社と話し合いの上緊急発掘調査を実施することにし、団長に佐藤甦信先生をお願いし、約20日間を費して行われたが、縄文中期の住居址とそれに関係する土器等貴重な資料が検出され成果ある調査となつた。

この調査にあたつて、佐藤先生には終始熱意をもつて当られ、また土地開発公社及び関係者の理解と協力によって、ここに完了したことに対し深く敬意を表します。

昭和56年3月

飯田市教育委員会

例　　言

1. 本書は昭和52年度 飯田市山本小学校建設に伴う白山遺跡発掘調査報告書である。
2. 編集及び執筆は佐藤が担当した。
3. 写真は佐藤が、遺構実測図作成は佐藤・牧内が、製図は田口が分担した。
4. 遺構実測図のうちピット内、または横に記してある数字は床面からの深さをcmであらわし、遺物出土状況は床面からの高さをcmであらわし、縮尺は図示してある。
5. 本書の発行は種々の事情のため遅れ、また、遺物は図版で示した。
6. 出土遺物は飯田市考古資料館に保管してある。

目　　次

序	1
例　　言	2
目　　次	2
I　環　境	3
II　発掘調査経過	5
III　調査結果	6
IV　まとめ	12
調査組織	13
図　　版	14
I　遺　　跡	
II　遺　　構	
III　2号住居址出土遺物	
IV　3号　〃	
V　4号　〃	
VI　5号　〃	
VII　発掘スナップ	

I 環 境

白山遺跡は長野県飯田市山本（旧山本村）竹佐に所在する。

山本地区は東に二ツ山・城山・水昌山・西山と750m級の小山脈が聳え、西に高鳥屋山・梨野峰の1300m級の山が立ち並び、その中間に存在する小さい谷盆地である。西方の山麓に発達している扇状地より続く洪積期の堆積物によって覆われ、それを久米川・湯川などの川が侵蝕して谷を作っている地形で、台地が残っている所もあり、谷の深い所もある。丁度指をひろげた手の甲とでも言った地形である。白山はその一つの指の先に立地していると言ったらばよい。舌状の台地をなし、標高600～602m、発掘調査地点のすぐ西に伊奈神社・観音寺が並び、遺跡の範囲に含まれるものとみられ、約東西250m、南北50～90mの範囲である。

遺跡の北から東は久米川の高差22mの侵蝕崖となり、その下を北から東へ久米川が流れ、深い広い谷を形成し、水田地帯となっており、その北には二ツ山が、東には城山が聳えている。南は久米川の支流の谷頭侵蝕谷に切られ、高差20mの侵蝕崖となっており、谷を隔てて山本中学校のある杵原台地が、さらに谷を隔てて箱川原台地となる。西は扇状地が山麓へと続いている。⁽¹⁾

白山周辺の遺跡をみるとすぐ西に小さな谷を隔てて大塚古墳があり、約2分の1が中山津川線用地内となり、1969年発掘が行われ中世火葬墓群が発見されている。⁽²⁾南西1kmに石子原遺跡がある。ここは中央自動車道用地内調査の際旧石器の出土をみ注目され、また縄文早期押型文土器も発見され、方形周溝墓3基が調査され、石子原古墳の発掘もなされ石室墓擴が発見されている。箱川原遺跡では1970年ミカレーデー工場建設時の発掘調査では縄文中期後半の住居址5軒が調査され、完形の釣手土器・有孔鉗付土器の出土をみている。東方にある城山には中世城跡があり、空堀・土塁が残存している。

注1 日本鉄道建設公団名古屋支社「大塚」1969

注2 長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書 一 飯田市内その2・その3

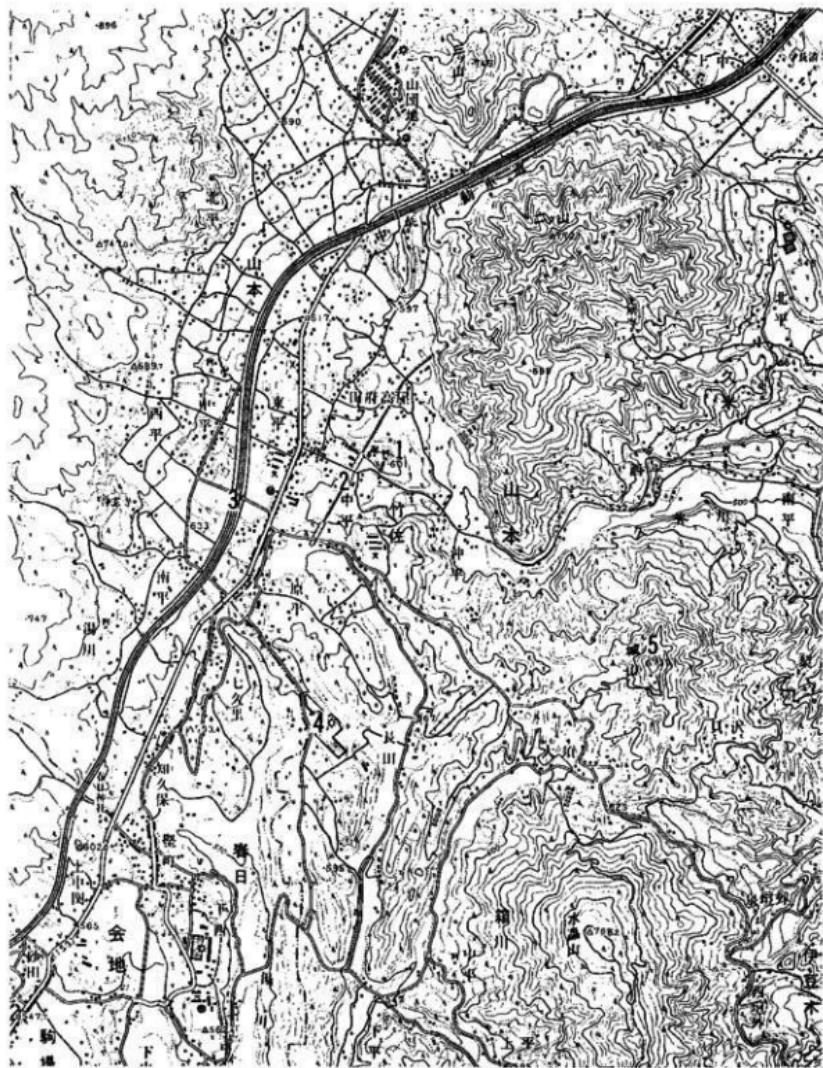


図1 白山遺跡地形図及び周辺主要遺跡図 (1 : 25000)

1. 白山 2. 大塚 3. 石子原 4. 黒川原 5. 城山城跡

II 発掘調査経過

飯田市山本小学校建設は、昭和52年度に造成工事にかかることになった。用地は白山遺跡の所在地にかかり、このため飯田市教育委員会は事前に発掘調査を行ない記録保存することになったのが本次調査である。

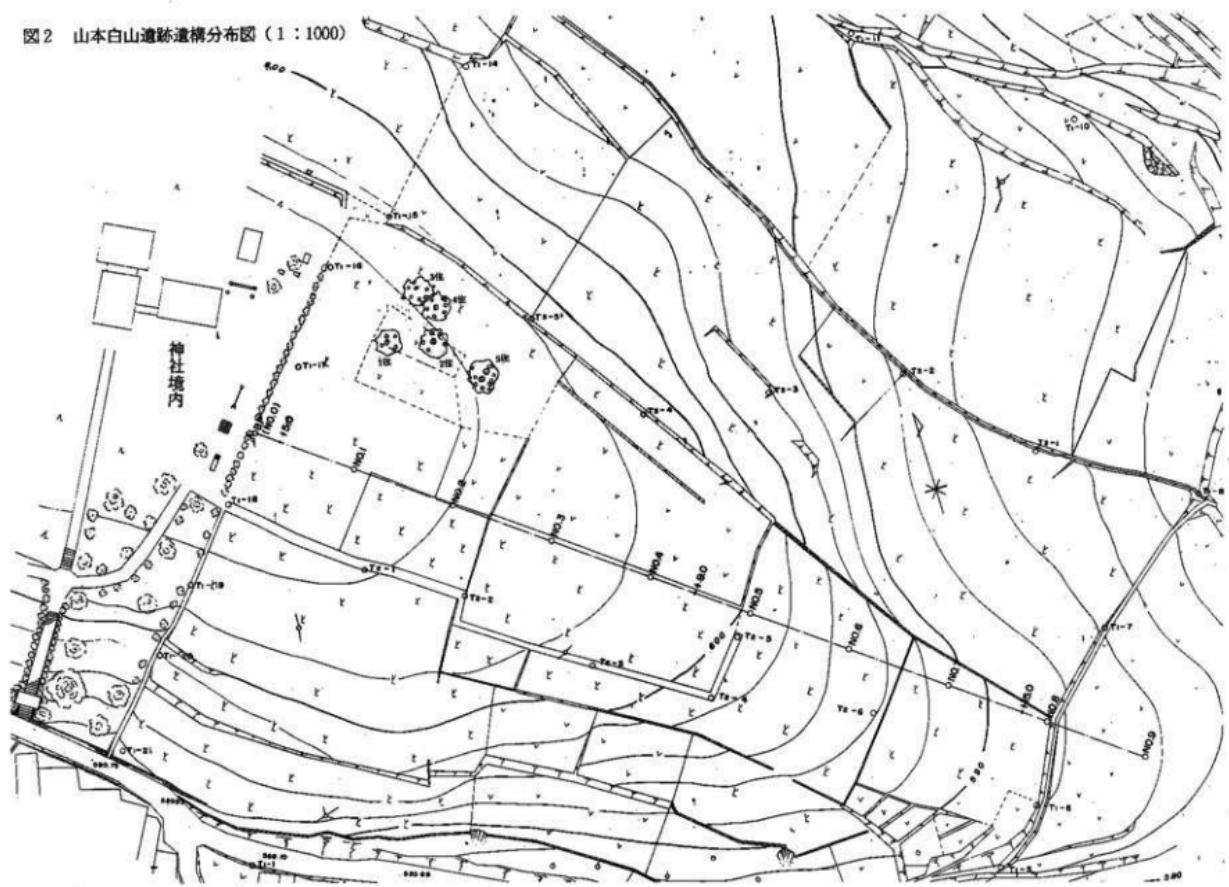
発掘調査日誌

- 4月20日（晴） 現地調査をなす。
- 4月21日（晴） ブルトーザにより表土排除、遺構の有無を調査、台地中央部から南側には遺構ではなく、北東斜面にかかる地点に遺構の存在を確認する。
- 4月22日（晴） 器材運搬、テント張り
- 4月23日（晴） 遺構検出作業、上層の土の排除
- 4月24日（日曜日休み）25日（雨）作業不能
- 4月26日（晴） 1号・2号住居址検出、調査。
- 4月27日（晴・うすぐもり） 1号住居址掘上げ、測量。
遺物は僅少である。2号住居址の調査。遺物多く、深鉢1コ体の出土をみる。
- 4月28日（雨） 作業不能
- 4月29日（晴） 2号住居址の調査。3号・4号住居址検出、覆土の調査、土器の出土多し。
- 4月30日（晴） 2号住居址完掘。3号住居址の調査。床面にいたる。遺物多し。
- 5月1日（晴） 2号住居址測量、3号住居址はば掘上げる。4号住居址調査、覆土中よりの土器の出土多く、投げ込みの状態である。
- 5月2日（雨） 休み
- 5月3日（晴） 3号住居址完掘、4号住居址調査、遺物多く手間どる。
- 5月4日（くもり） 4号住居址完掘。5号住居址検出、調査をすすめる。
- 5月5日（雨） 休み
- 5月6日（晴） 3号・4号住居址測量。5号住居址調査。
- 5月7日（くもり・晴） 5号住居址完掘。北側下段面ピット調査、遺構・遺物なし。
- 5月8日 日曜日休み
- 5月9日（晴） 5号住居址測量。遺構分布測量。北側下段面を調査するが遺構・遺物なし。テント、器材を撤収し、現場調査を終わる。

現場調査終了後、遺物・図の整理をなすが、他遺跡の調査・種々の事情のため報告書作成が遅れ今日に至ってしまった。

図2 山本白山遺跡遺構分布図 (1:1000)

9



III 調査結果

白山遺跡発掘調査した遺構は縄文中期中葉の住居址5軒である。校舎建設用地の台地北西端部に集中して発見されている。

遺構・遺物

1号住居址(図3)

2号・3号・4号住居址の南4~6mにあり、径南北4.2m、東西4.7mの円形をなし、5か所に小さな半円状の突出部をもち、ローム層に15cm前後の深さに掘りこむ竪穴住居址である。床面はあまり堅くなく、西側には地山の礫が露出している。主柱穴は4ことみるが、中心より僅か東によって支柱穴とみるが1ことある。炉址は中心より僅か西に片寄ってあり、径50cmの円形に細長い礫で囲み、深さ8cmの小型の石・團炉である。

遺物は僅かに勝板式土器片をみたのみである。

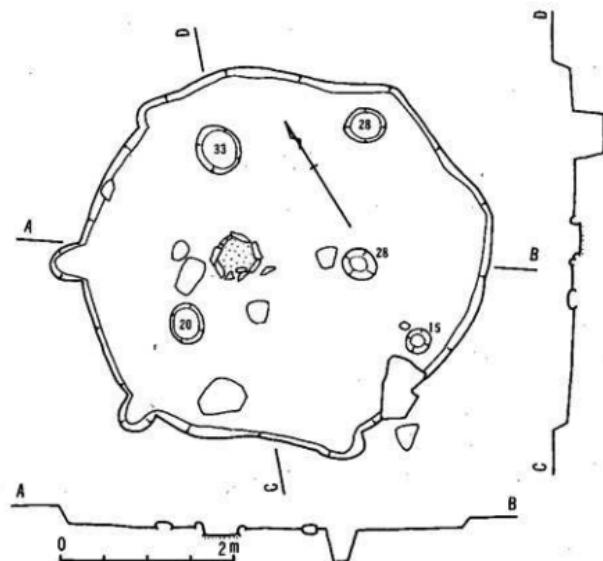


図3 白山遺跡1号住居址

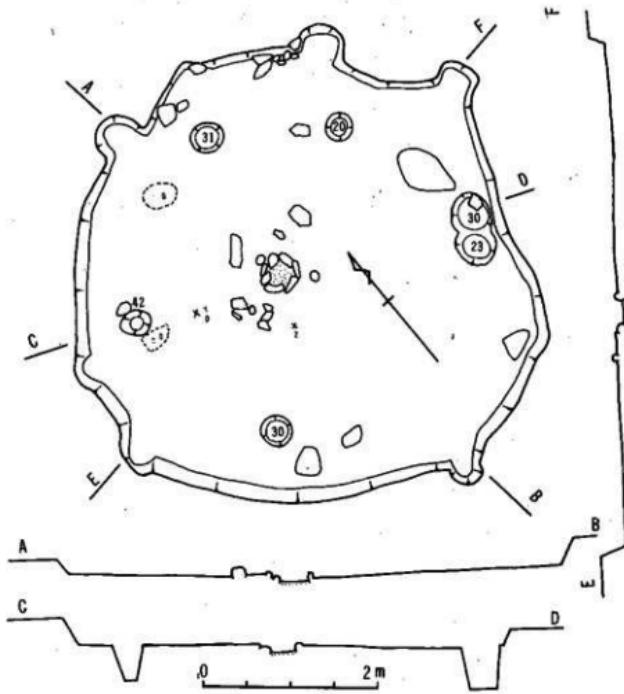


図 4 白山遺跡 2 号住居址

2号住居址(図4)

遺構群のほぼ中央部にあり、径 5.2 m の円形プランをなすが、八角形ともみる突出部をもち、特に 6 つの柱穴状とみる壁に扶りこみをもっている。南側で 30 cm、北側で 20 cm ローム層に掘りこむ竪穴住居址である。主柱穴は 5 ことみられ、床面は堅く、炉址は中心より僅かに北に寄っており、径が 40 cm の円形石開炉である。

出土遺物(図版Ⅲ)は覆土から床面に全面にみられ、土器には深鉢・浅鉢がある。図版Ⅲの 1 ~ 3 のはば完形の装飾把手付深鉢は縦高 29.2 cm・口縁高さ 21.6 cm・口径 14 cm・底径 9 cm、中央部にミミズク把手が立ち、三方に耳飾状把手が付き、口縁部から胴部を半肉彫の施文で飾るものである。

深鉢は波状口縁をなすが大半を占め、口縁部と胴部に半肉彫施文が集中する(5・6・7)の土器、口縁部だけに横位施文帯を配し、以下は繩文または無文の口頭横帶文土器(8)、口縁部に三角形と半円の隆帯を付し、半截竹管文を全面に施す平出Ⅲ類 A の系統をもつ土器(9)があり、器形を十分に知ることができないが眼鏡状の把手と耳飾状把手を付す飾られた土器(10)がある。また 5 号住居址出土にみる(図版 VI 2)細隆線文土器も多くみられる。浅鉢(11)は口縁部に半円状の隆帯をめぐらすものである。

石器は床面出土(12)に打石斧・磨石斧・横刃形石器・磨石・凹石があり、覆土出土との計は打石斧 11、磨石斧 2、横刃形石器 7、石錐 1、磨石 1、凹石 1 と、この期の石器量としては少ない。打石斧は最大 415 g・長さ 15.5 cm、最小 90 g・長さ 10 cm、平均 185 g・長さ 12 cm と大型である。材質は凝灰岩製 2 の

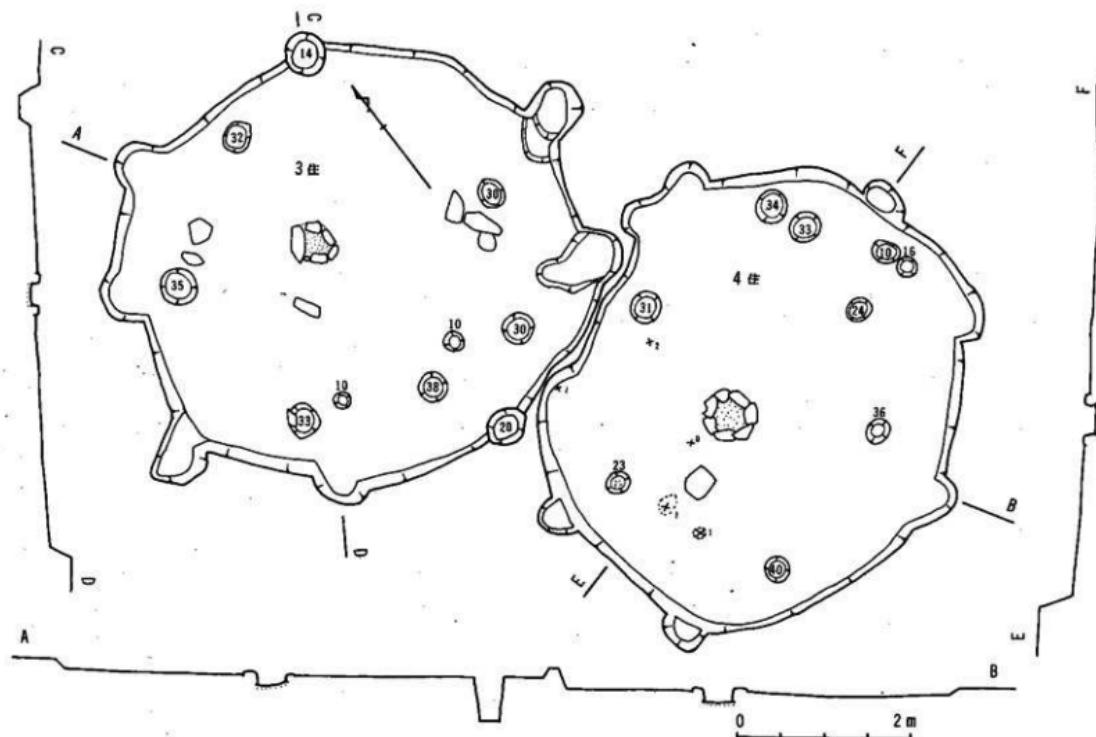


図5 白山遺跡3号・4号住居址

他は硬砂岩製である。

3号住居址（図5）

調査区の北西端部に発見され、東は4号住居址と接している。南北5m・東西5.2mの円形プランをなすが、八方に壁にくいて柱穴をなす掘りこみをもち、八角形をなすともみられる。ローム層に浅く掘りこむ竪穴住居址である。床面は堅く、主柱穴は6ことみる。炉址は中心より西に片寄ってあり、外周で50cm前後の円形、深さ10cmの整った石團炉である。

遺物（図版IV）土器は深鉢のみがみられ、縄文の地文に細隆起文による区画文で飾るもの（1）、口縁部から続く太い隆帯区画文をもち、隆帯を綾杉文と爪形状の押引文を施し、区画内部を縦の沈線で飾る（2）、口縁帯区画文の内部を押引文による（3）。4は把手部を欠くが半肉彫施文の豪華な土器である。また細線隆起文のみにより飾られる文様がみられる。土製品に土偶の手が1対の出土をみており、その幅4.9cmと大型土偶とみられる。

石器（5）には打石斧10、横刃形石器1、磨石斧折れ1、石錐3と、この期の当地方の他遺跡住居址例と比べ器種が少ない。打石斧の最大280g・長さ15cm、最小115g・長さ10cm、平均132g・長さ12cmと比較的大形であり、石器の材質はいずれも硬砂岩であることも注目される。

4号住居址（図5）

3号住居址の東に接してあっており、南北5.2m・東西4.4mの変形梢円形をなし、壁より突出する柱穴状の掘りこみが8個所にみられる。北側で10cm前後、南側で30cmローム層に掘りこむ竪穴住居址である。床面は堅く、主柱穴は5ことみられるが、北東壁に沿う柱穴4つが東西方向に並んでいる。炉址は中心より西にやや寄ってあり、外周50cmの整った円形の石團炉である。

遺物（図版V）土器の出土量は多く、床面上にみられ、深鉢・浅鉢がある。装飾把手付深鉢（1）は半肉彫施文による区画文が口縁部から脇部に施されるとみられ、ミミズク把手（2）の出土もみている。深鉢の大半は波状口縁をなし、半肉彫による区画文（3）を、蛇体を表わすとみる（2）があり、口縁部に縦の隆帯と横位の沈線区画文で飾り脇部は縄文のみとなる（4）、半截竹管による波状文と縦の条線、脇くびれ部をめぐる押圧文で飾る平出III類A（5・6・7）の土器群がある。（7）は人面把手をもつものである。

浅鉢は口縁部のみに文様をもち、（8）は口径38cm・高さ16cm、口唇部に眉状の押圧文をめぐらしている。（9）の左は口縁に突起をもつ以外は無文である。（10・11）は口縁部に眉状の押圧文がめぐり、半肉彫施文で飾るクチバシ状の突出部をもち、その両側の口唇部は鳥の脚とみる施文で飾られている。

石器（12）には打石斧・横刃形石器・石錐・凹石があり、2号・3号住居址出土石器と形態を同じくする。

5号住居址（図6）

2号住居址の東5.5mに発見され、住居址群の東端部にある。南北5.9m・東西4.2~5.1mの変形六角形をなし、6箇所に突出部をもつ。北側で15cm、南側で30cm前後ローム層に掘りこむ竪穴住居址である。床面は堅く、柱穴は10つ発見されているが、主柱穴は6ことみられ、また、炉址は中心より西に寄って石團炉の石をはずされた痕跡をはっきりと残す旧炉址と、中心より東に寄って新しい石團炉があり、建替のなされた住居址である。

遺物（図版VI）土器には深鉢片の多くと浅鉢片1点がある。深鉢には半肉彫施文を主とする（1）もの

と、細い粘土紐の貼布で飾る所謂細縫線文土器片（2）とが、ほぼ等量の山土をみており、平出Ⅲ類Aの土器（3）もみられる。

石器には、打石斧17（折れ6），刃部を久く磨石斧2こ，横刃形石器4こ，石錐1ここの出土をみており打石斧の材質は3こか凝灰岩製の他は硬砂岩，横刃形石器は1こか凝灰岩製の他は硬砂岩製で、他住居址と大差はない。

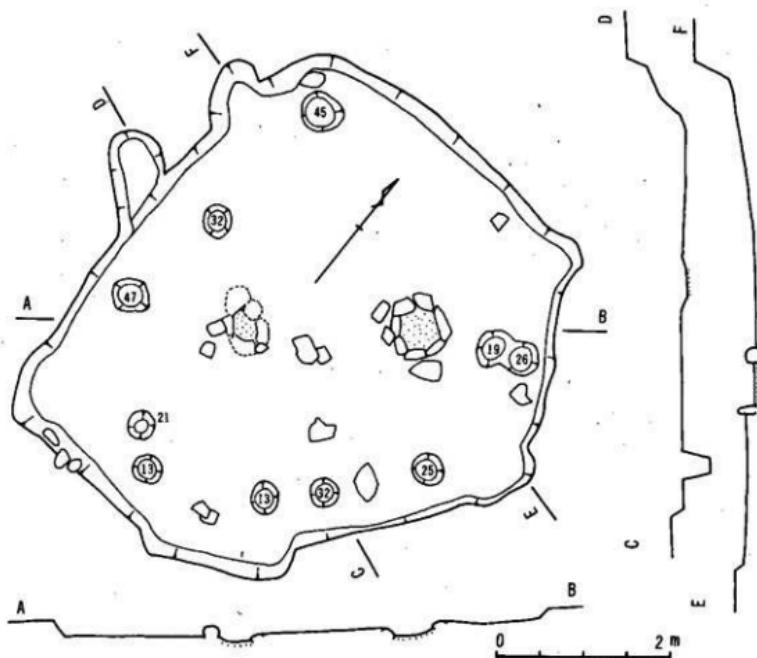


図6 白山遺跡5号住居址

IV ま　と　め

白山遺跡の調査は、昭和52年度山本小学校建設に伴う記録保存を目的とした発掘調査であった。遺跡は久米川とその支流の侵蝕によって三方が削りとられ、扇状地が舌状台地となって残った先端部に立地している。

遺構は台地中央部から南側に所在するものと予想されたが遺構は予想に反し、台地北縁部に集中して発見された。遺構の西側は耕作による荒れが甚しく遺構検出はできなかつたが遺物は発見されており、おそらく西側の学校用地外の神社境内に集落は展開しているものと予想される。

調査された住居址の形態が、いずれも壁より6乃至8この柱穴状の突出部をもつ竪穴住居であり、円形プランとみると、六角形または八角をなすとみるものである。

土器は、縄文中期中葉の勝板式土器を主体とし、平山Ⅲ類A、細縞線文土器を伴出しておる、東訪地方編年では井戸尻I式に比定されるものとみた。

細縞線文土器は各住居址床面より量的には差はあるが、他の半肉彫施文による豪華な文様構成をなす土器・半截竹管文の平出Ⅲ類A等の土器に伴って出土をみている。近時この土器については伊那地方における縄文中期後半Ⅰ期の土器と位置づける研究発表がみられているが、白山遺跡出土例からみると、細い粘土紐の貼布で飾る所謂細縞線文土器の出現は中期中葉に位置づけられるものとみるが、今後の研究課題である。

遺物の出土状況は、大半が床面またはその直上より、住居址の全面にわたってみられた。おそらく、住居廃絶時における放棄または投入とみられ、廃絶後の時間的経過はみられないものと思われる。

出土土器は伊那地方においては現時点では比較的少ないものであり、縄文中期中葉の伊那谷を考える上のお資料であり、問題を提示するものと思われる。

調査後、他遺跡の調査や、その他の事情により、報告書発行が今日に至り、また遺物はやむを得ず写真に依らざるを得なくなつた。

調査にあたつては今村正次先生の御協力があり、遺物の整理をも引受けられ、御教示をいただいた伴信夫先生、また作業にあたられた方々の熱心な御骨折りがあったことを深く御礼申上げたい。

(佐藤 勝信)

調査組織

1. 白山遺跡埋蔵文化財発掘調査委員会

平田 英夫	飯田市教育委員会委員長
勝野 好一	飯田市教育委員
沢柳 俊夫	"
大田中 一郎	"
林 研二	飯田市教育長
相津 実	飯田市教育委員会事務局社会教育課長

2. 調査団

團 長	佐藤 雄信
調査員	今村 正次

3. 指導者

伴 信夫	長野県教育委員会文化課指導主事
------	-----------------

4. 事務局

飯田市教育委員会社会教育課

相津 実	社会教育課長
山下 鮎平	課長補佐・係長
熊谷 里恵子	主事

飯田市教育委員会学校教育課

木下 良美	学校教育課長
鈴木 藤雄	学校教育施設係長
湯沢 英範	学校教育施設係

5. 作業員

市村 義夫	松島 栄
林 顕人	亀井 敦一
中平 邦茂	岡山 理
永坂 美千代	橋本 ゆかり
竹村 ふさ子	柳沢 幸子
塙沢 良昭	竹中 寿夫

福島 明夫	北村 重実
牧内 佳子	佐藤 いなゑ
田口 さなゑ	

図版 I 遺 跡



1. 遺跡近景—南東より



2. 遺跡近景—西より

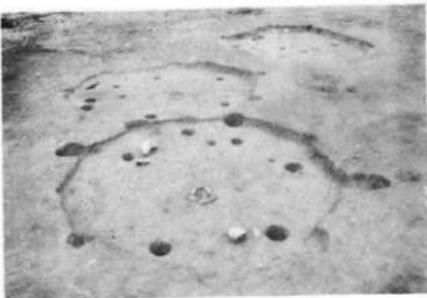


3. 遺跡遠景—東より 中央台地が遺跡

図版 II 遺 構



1. 遺構全景—東より



2. 遺構全景—西より
手前から 3住・4住・2住



3. 1号住居址



6. 3号住居址



4. 2号住居址



5. 2号住居址 炉址



7. 4号住居址 土器出土状况



8. 6号住居址

図版III 2号住居址出土遺物



1. 装飾把手付深鉢



2. 装飾把手付深鉢

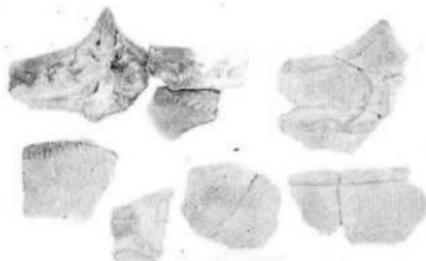


3. 装飾把手付深鉢

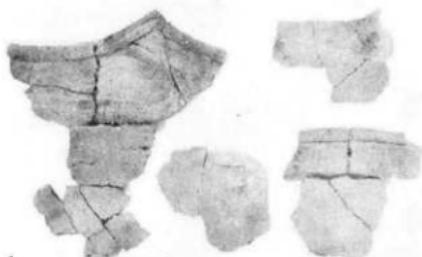


4. 装飾把手付深鉢 出土状況

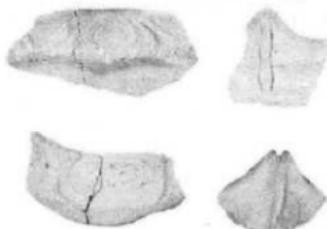
5.
2号住居址出土遗物



6. 2号住居址出土遗物



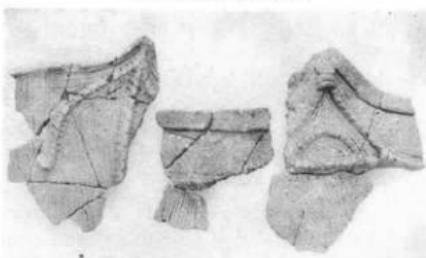
8. 2号住居址出土遗物



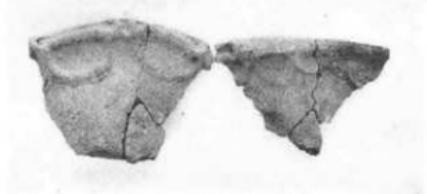
7. 2号住居址出土遗物



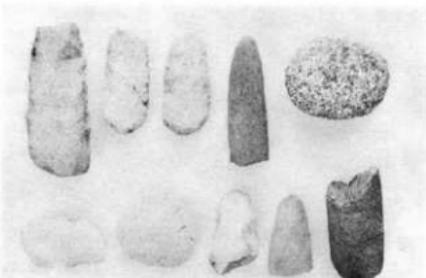
10. 2号住居址出土遗物



9. 2号住居址出土遗物



11. 2号住居址出土遗物



12. 2号住居址出土遗物

図版IV 3号住居址出土遺物



1. 3号住居址出土遺物



2. 3号住居址出土遺物



3. 3号住居址出土遺物

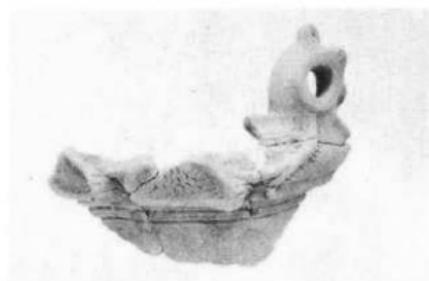


5. 3号住居址出土遺物

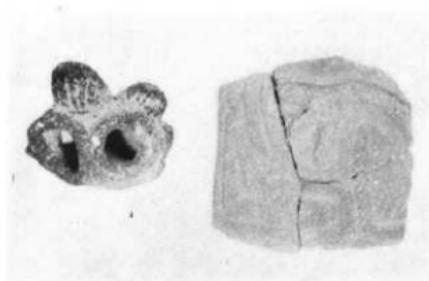


4. 3号住居址出土遺物

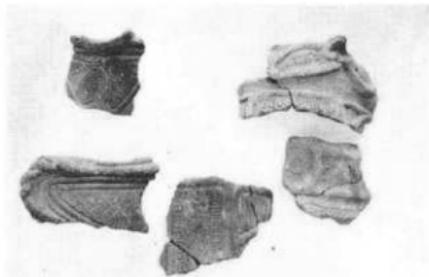
図版 V 4号住居址出土遺物



1. 装飾把手付深鉢



2. ミミズク把手(左)、蛇体を表わす(右)



3. 4号住居址出土遺物



4. 4号住居址出土遺物



5. 4号住居址出土遺物



6. 4号住居址出土遺物



7. 人面把手



8. 浅鉢



10. 浅鉢(11)の外面



11. 浅鉢(11)の内面

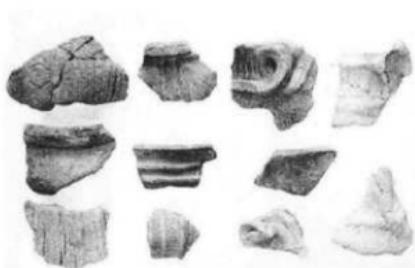


9. 浅鉢



12. 石器

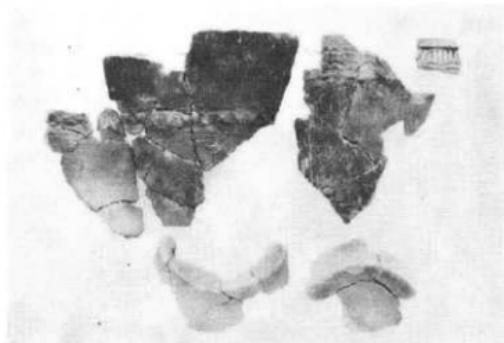
図版VI 5号住居址出土遺物



1. 5号住居址出土遺物



2. 5号住居址出土遺物



3. 5号住居址出土遺物

図版VII 発掘スナップ



1. 発掘スナップ



2. 発掘スナップ

